

説教題：「**神聖なる民に属する者**」

聖書箇所：エフェソの信徒への手紙2章11-22節（354頁）

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 45 交読詩編：詩編115編12 - 18節（128頁）

讚美歌：83/120（主はわがかいぬし）/466（山路こえて）/81（主の食卓を囲み）/27

「今週の聖句」〔従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、…霊の働きによって神の住まいとなるのです。〕（エペソ書2：19・22）

「牧師室の窓」 「幼き日田植えの青き苗を持ち水温みたる田に差し入れぬ」

「青き葉の苗は育てて黄金なす米となる日を父は語りし」

(1)皆様おはようございます。2025年も5か月が過ぎて本日より6月になりました。先週、私がお世話になっている病院に行きましたところ、入口のガラスドアの上に、ツバメの巣を見つけました。暫(しばらく)く見ていましたら、親鳥が何度も何度も行き来をしていました。雛への食べ物運びなのでしょう。親ツバメは一生懸命です。病院に入り、お医者さんからの診察で、具合はどうですか、何か変わったことがありましたかと、尋ねられましたので、一通り簡単に応えて、入口のツバメの巣に癒されましたと話しました。看護師さんも話に乗って来て、診察のパソコンにツバメの話と記録したようです。私の話すショート・ストーリーがいつも記録されており、お医者さんはそれをパソコン画面で見て、患者を思い出し、識別しているようです。私も職場勤務時代には3年毎に転勤して、その都度、多くの方々に会い、名刺にメモをして、人物を記憶していましたので、ドクターも大変ですねと退出してきました。

…今日の聖書箇所は短い箇所ですが、重要な言葉、考え方がたくさん並んで書かれています。譬えが良いかどうか分かりませんが、握りずしの詰め合わせや、美味しい横浜の崎陽軒のお弁当のようです。しっかりと味わって参りましょう。何回も読んで味わうことが大切です。

(2)本日はエフェソの信徒への手紙を読み解く4第回目です。2章の11節は「だから、心に留めておきなさい」と書かれています。「だから」とは、今日の聖書箇所の直前にある聖句を指しています。チェックしておきましょう。2章の5節には「あなたがたの救われたのは恵みによる」、8節「恵みにより、信仰によって救われたことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です」、そして10節「なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために歩むのです。」

特に10節に書かれている「神に造られたもの」は「神の作品」とも翻訳されています。何故、命が大切なのか、その根源がここにあります。人間の命は「神に造られたもの、神の作品」だからであります。何故、私たちは生涯を大切に生かすに懸命に生きねばならないのか、その出発点がここにあります。「神の賜物」を大切に取らねばならないからです。

自由に生きるとは、自分の身勝手に日々を過ごすことではなく、「神の賜物」を様々に工夫して、思案して生かすことにあります。つまり、神の呼び掛けに自分なりに応えようとするチャレンジすることにあります。ルカ伝の放蕩息子が自分を見つめ直した時に「我に返った」と書かれています。また、マルタが「多くのことに思い悩み、心を乱している」ことに気が付いた時に、自分自身が「神の作品」であり、「自らの力によるのではなく、神の賜物」であることを発見したのです。この11節「だから、心に留めておきなさい」は僅か14文字ですが、深い意味があります。聖書の文字数を数えることは大切です。その文字数の背後にある意味・発信信号・メッセージを理解することの出発点になるからです。

(3)エフェソの町はユダヤの地から離れた場所であり、当時の世界七不思議に数えられた巨大な建築物アルテミス女神神殿があった偶像崇拜の町、異教の人々が住む所でした。パウロたち伝道

チームの働きによりイエス・キリストを信じる人たちにへなっ行って行きました。そのことが12節13節に書かれています。読みます。〔(2:12)また、そのころは、キリストとかかわりなく、イスラエルの民に属さず、約束を含む契約と関係なく、この世の中で希望を持たず、神を知らずに生きていました。(2:13)しかしあなたがたは、以前は遠く離れていたが、今や、キリスト・イエスにおいて、キリストの血によって近い者となったのです。〕この12節に書かれている中で「約束を含む契約と関係なく、この世の中で希望を持たず、神を知らずに生きていました」この表現は現代社会を表わしています。現代社会には、約束を守る人とそうでない人とに区分され、あるいは、希望を持つ人とそうでない人とにされてしまいそうですが、14節には、「二つのものを一つにし」、「敵意という隔ての壁を取り壊し」と書かれています。

何故、この様な言葉が書かれているのでしょうか。何故、この様な考え方がなされるのでしょうか。ユダヤの地に生まれ育ったユダヤ教のみならず、各地の夫々の宗教が、自国民以外の人々を外国人と看做し、自分たちが信じる宗教を信じない人々を異邦人と呼び、差別していたのです。併し、パウロがイエス・キリストの教えを異邦人に対して、伝道を続けるうちに、「二つのものを一つにし」、「敵意という隔ての壁を取り壊し」て、と言う考えに至ったのではないかと、私は思います。使徒言行録16章にこのことを推理し、解き明かす記事が書かれています。そこを見ますと、アジア州の西の涯、エーゲ海を目の前にして、ヨーロッパであるマケドニアに人々の声を幻の中で聞き、船でヨーロッパへと行き、伝道を行なうのです。

(4)人間には困難に出会い取り囲まれた時に対処する2つの対応策(パターン)があります。

1つは、困難の大きさに対して、自分には限界があると諦(あきら)めてしまうことです。

もう1つは、何らかの打開策はないかと思案することです。…直近の事例で言いますと、日本国内では食用のお米が急速に高くなり、人々の生活を直撃しています。政府の備蓄米を販売することで対応しました。併し、ここで新たな困難が待ち受けていたのです。それは、米を所有している政府と、購入者である事業者との売買方式が「競争入札」であり、かつ「買戻し条件付き(英語で、redemption clause や with recourse と言います。序で乍ら、redemptionとは神学の用語でキリストによる罪の贖い・救いと言う意味があります。)」

今回の政府備蓄米売却で、この「競争入札」と「買戻し条件付き」とが、消費者の米不足や高値解消には効果を発揮しないことが、実務や法律を学んだ人には分かっていました。問題点が浮き彫りになり、「随意契約方式」と「買戻し条件なし」とになりました。これで一時的な対処療法になりましたが、問題はこれからです。お米の需要と供給の不均衡に対してどの様にするのか。そして、最も手ごわいのは、お米の流通がブラックボックスになっており、この暗黒大陸をどうするのかです。以前には、薬、お薬の流通ブラックボックスが改善されました。直近では、調剤薬局の統合・合併が目されています。

(5)14節に書かれている言葉が15節では「キリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し」となっており、16節では「十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を減ぼされました」と書かれています。同じ考え方を、異なる言葉によって表現しているのです。今日(きょう)の聖書箇所14節~17節に共通する考え方は「平和」です。「平和」とは何か。旧約聖書の詩編34編15節には次の様に書かれています。〔(詩34:15)悪を避け、善を行ない、平和を尋ね求め、追い求めよ〕と書かれています。この詩の箇所の前提となっているのは、人間はひとりで生きているのではなく、多様な考えの人々の中に生きている、だからこそ、懸命に生きて、平和を尋ね求め、追い求めよと言っているのです。序で乍ら、この詩編34編19節には〔(詩34:19)主は打ち砕かれた心に近くいまし、悔いる霊を救ってくださる〕と書かれています。平和を求める行動の報酬として、「悔いる霊を救ってくださる」と言う報酬が与えら

れると詩編の作者は私たちに伝えています。新約聖書で、イエス・キリストが平和を与えと呼び掛けています。この世に生まれた私たちは道を見失い迷っていますが、神の御恵みにより立ち帰り魂の平安を与えられるのです。聖書が言っている平和とは、国際政治での武力戦争での平和ではなく、もっと、人間としてこの世の中で生きて行く上での根源的な生き方であります。18節には〔(2:18)それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父(おんちち)に近づくことができるのです。〕ここに書かれている「御父(おんちち)に近づくことができる」とは、別の言葉で言えば、「神の恵みを受ける」と言うことになります。つまり、「平和」には「神の恵み」と言う報酬が与えられるのです。

(6) 19節を見てみましょう。〔(2:19)従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり〕と書かれています。今日の聖書箇所を始めに書かれていた「異邦人」或いは「希望を持たず、神を知らずに生きて」きた人々が、今日の聖書箇所の僅かな行数・文字数を経て、いつの間にか「聖なる民に属する者、神の家族」になったのです。勿論、パウロはエフェソの町に2年数ヵ月滞在していましたのでしたから、時の経過が相応にあったのことですが、エフェソの手紙を読む機会を与えられた私たちは、その恩恵を受けているのです。ここに聖書を読む喜びがあります。21節22節には「聖なる民に属する者」とは何かを伝えています。それはあなたが、つまり、私たちが「聖なる神殿」、「神の住まい」となると言うのです。2章10節に書かれていた「神に造られたもの(神の作品)」、その意味を明らかにしているのです。と言うことは、言葉を言い換えると、「あなたはどうか生きるのか」と私たちは問い掛けられ、神の恵みに導かれていると言えますでしょう。

(7) 先月5月11日に私が横浜市内にある上星川教会創立75周年記念礼拝でお話ししたことの中の一つをお伝えします。私はその教会の教会員として、20年程前に会堂建築委員長をしていました。土地を貸して頂くとの申し出に対して当時の牧師と共に面談しました。日本の法律では契約の種類は13種類あり、貸していただくと言っても、人間の寿命に対して、教会の寿命は比較にはなりません。そこで私は、借りる期間を1千年にとお願いしました。私は神学校に在籍しましたので。後任に託しました。結果的には、数百年間となりました。先月5月11日の礼拝前、朝早くに私は上星川教会を創設された方ご夫妻のお墓を尋ね、花を捧げて、感謝を申し上げて参りました。当日の説教の全文は、南板橋教会のホームページに掲示いたします。既に手続きを取りましたので、近いうちにご覧になられます。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちは、来週の6月8日には聖霊降臨日・ペンテコステを迎えようとしています。ありがとうございます。神の恵みに感謝します。これからも信仰を導いて下さいますようお願いします。

神が創造されましたこの地球上に生きる一人ひとりに平安・平和と希望が与えられますように。食べ物が乏しい人々に、災害や戦争の只中にある一人ひとりに慰めがありますように、お守りください。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン